



広報

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻
 京都大学医学部人間健康科学科



市民公開講座ブース体験（脳梗塞モデル脳スライスとその組織切片観察）の様子（P12 参照）

目次

○学科長メッセージ	澤本 伸克… 2	リハビリテーション科学コース	
○課題解決型高度医療人材養成プログラム	教授 稲富 宏之… 3	助教 田畑 阿美… 10	
○退任挨拶		リハビリテーション科学コース	
元検査技術科学コース 特定教授	竹松 弘… 5	特定助教 趙 朔… 10	
元看護科学コース 助教	西村亜希子… 5	リハビリテーション科学コース	
元リハビリテーション科学コース		特定助教 入江 啓輔… 11	
助教 松林 潤… 5		近未来型人間健康科学融合ユニット	
○新任挨拶		特定助教 島 淳… 11	
リハビリテーション科学コース		○第 31 回健康科学市民公開講座開催報告… 12	
教授 青山 朋樹… 6		○2018 年度オープンキャンパス … 14	
検査技術科学コース 特定教授	上久保靖彦… 6	○平成 30 年度博士取得者… 15	
看護科学コース 特定教授	西垣 昌和… 7	○2019 年度入学試験結果 … 23	
看護科学コース 特定准教授	岡本 里香… 8	○平成 30 年度修了・卒業生数… 24	
検査技術科学コース 准教授	野中 元裕… 8	○平成 30 年度卒業生の進路調査結果… 25	
検査技術科学コース 准教授	徳野 治… 8	○人事異動 … 26	
看護科学コース 特定助教	佐藤 憲明… 9	○日 誌 … 27	
看護科学コース 助教	古谷 和紀… 9	○あとがき … 28	

学科長メッセージ

澤本 伸克

令和の時代の第一号の広報誌をお届けさせていただきます。はじめに、専攻の現況をお伝えいたします。

前号の広報誌で足立壮一前専攻長からお伝えいたしましたとおり、医学部人間健康科学科では、現在、組織改革を進行させています。平成 29 年度からは、一般入試の入学定員を 70 名に変更しています。学生の多様性を重視して、特色入試の入学定員を 30 名（看護科学 20 名、理学療法学 5 名、作業療法学 5 名）に増やし、平成 30 年度からは新たに 17 名（看護 12 名、リハビリテーション 5 名）の 2 年次学士入学も導入いたしました。また、これまでの 4 専攻を、「先端看護科学コース」、「総合医療科学コース」、「先端リハビリテーション科学コース」へと再編しました。この組織改革では、学生の皆さんが将来、医学・医療に関わるものとして大きく成長していくためのプログラムの、さらなる充実も図りました。京都大学医学研究科、医学部附属病院、iPS 細胞研究所、ウイルス・再生医科学研究所をはじめとする部局で、世界をリードする独創的な研究をされている先生方が、学生の卒業研究と、その後の大学院での指導をご担当いただきます。この新制度下での一期生が、学部 3 回生として、各コースに配属され、充実した学生生活を過ごしています。

医学研究科人間健康科学系専攻では、今後、教育・研究をより一層充実させるために、修士課程と博士後期課程の入学定員を増員する計画を立てています。増員による大学院教育の重点化は、急速でダイナミックに変貌し続ける医療を実践し、発展させる医療人・医学研究者を育てるために必要であると私たちは考えています。本学の学部・大学院卒業生が、グローバルな医療の変化と進歩に対応できる高度医療専門職として、あるいは独創的な新規医学分野を開拓する研究者として、これまで以上に社会に大きく貢献していくことを期待しています。

文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」選定事業 発達症への介入による国民的健康課題の解決

リハビリテーション科学コース 作業療法学講座 教授 稲富 宏之

2018年度より京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 リハビリテーション科学コース 作業療法学講座では、文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」採択事業として「発達症への介入による国民的健康課題の解決」を展開しています。

【本事業の背景】

近年、うつ、依存症、不登校、ひきこもり等が年齢を問わず国民の精神的健康の損失をもたらす大問題としてとりあげられており、就労現場においてもアブセンティズム、プレゼンティズム等による社会的生産性の著しい低下がクローズアップされています。この背景として発達症（発達障がい）、なかでも自閉スペクトラム症（autism spectrum disorder; 以下 ASD）が大きく関与していることが臨床現場から指摘されるようになってきました。それと同時に、ASDのある人は適性の合う業務に就くと精神的に安定するだけでなく優れた能力を発揮することも指摘されています。このように ASDのある人に有効な治療や社会適応をもたらすには、医師による診療のみならず、ASDの精神生理を踏まえたリハビリテーション、心理教育、生活・職業指導、社会技能生活訓練など多岐にわたるアプローチとともに、医療者と医療関連職のチームによる介入が重要となります。

【本事業の概要と目的】

本事業は、京都大学大学院医学研究科が早期から取り組んできた ASD の医療と、人間健康科学系専攻という部門を有し、精神科リハビリテーションや精神科看護学など多様な医療職を養成しているという特徴を活かして、以下の高度専門人材を養成するプログラムを提供するものです。

- ① 多様なメンタルヘルスの問題の背景にある ASD を的確に診断できる
- ② ASD の特徴的な精神生理を理解している
- ③ 保育、教育、就労、社会生活などライフステージを通じて生じる課題に対し、問題に応じたチーム医療体制を構築し、適切に対応することができる

本プログラムの目的は、ASDに関する医学と精神保健の基礎知識をもち、保育、教育、就労、社会生活などライフステージで生じる問題と課題の多様性に応じた介入法を柔軟に選択して、解決の方向性を見出すことのできる人材を養成することです。さらに、このプログラムで育成した人材の排出により、地域における支援の質を高め、メンタルヘルスにおける国民的健康課題を解決することを目指して参ります。

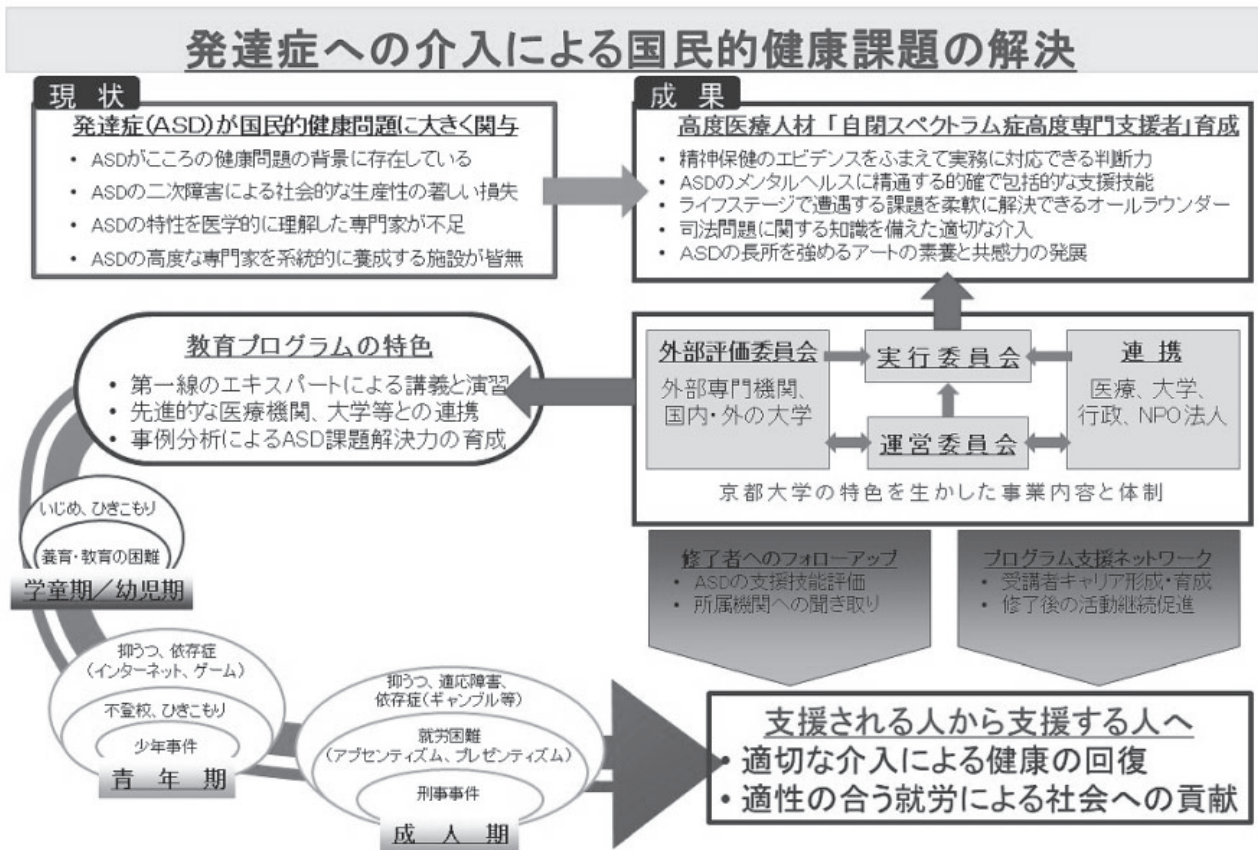
【教育プログラムの対象者】

教育プログラムでは、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、精神保健福祉士、公認心理師、保健師、言語聴覚士、養護教諭、ソーシャルワーカーなどの医療者・医療関連職を対象としています。

【プログラム内容】

本プログラムは講義と参加体験型実習を2年間にわたって開講します。

- 講義：講義1回あたり1時間とする系統的講義を1年次に54時間、2年次に40時間、計94時間開講します。
- 参加体験型実習：ASDの診断と評価、および専門的支援の実際と思考法について学ぶために、実習1回あたり平日の半日（3時間）または1日間（8時間）として設定する参加体験型実習を、1年次に3回（半日×2回と1日×1回の計14時間）、2年次に4回（半日×4回の計12時間）に分けて行います。



【本事業の実施状況】

2019年5月19日より第1回の講義が始まりました。

本事業に関する詳細は、ホームページを開設しておりますのでご覧ください。

U R L : <http://asdproject.jp/>



藤田医科大学に赴任いたしました。

元検査技術科学コース 特定教授 竹松 弘

みなさま、ご無沙汰しております。京都大学在籍時はお世話になりありがとうございました。縁ありまして、2018年9月より藤田医科大学の医療科学部に異動いたしました。皆様ご存じの、齋藤邦明先生、山本康子先生とは再び同僚となりました。京都大学には、学生の頃からの在籍でしたので、そちらでゆうに人生の半分以上を過ごしたことになり、様々な出会いが今の私に影響を与えているのは間違いありません。現在は、藤田でも研究ができ、研究者を育成できる、という方向性を目指し、しかしながら、講義三昧の生活を送っております。私学と言うこともあり、国家試験至上主義で、そのおかげもあり、極めて高い合格率を誇っているし、ちゃんとノウハウに基づいてやっているのを見ると、色々と考えさせられます。こちらの大学でも例に漏れず、組織改革を行っており、齋藤先生も学部長としてその陣頭に立っておられます。今後も何かと激動な事になると予見されますが、初心を忘れず、何かと乗り切っていければと思っております。立ち止まると、それだけで現状維持さえできない、赤の女王です。

末筆になりますが、人間健康科学の発展と皆様のご活躍を名古屋の地からお祈りしております。又、名古屋近辺にお越しの際には是非お声がけいただければ幸いです。

退職のご挨拶

元看護科学コース 助教 西村 亜希子

平成31年3月31日をもちまして、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻を退職いたしました。紙面をお借りしましてご挨拶を申し上げます。

私は、平成26年4月より助教として着任し、修士・博士後期課程を含めると、10年間在籍させていただきました。教育、研究ともに、京都大学で初めて携わらせていただき、右も左も分からないところから、多くの先生方にご指導、ご支援を賜り、様々な経験をさせていただきました。特に、基礎看護学の授業では、大学に入学して間もない学生と関わる中で、私自身も、毎回、新鮮な気持ちで看護学と向きあうことができました。また、素晴らしい先生方、臨床指導者の方々と一緒に授業を担当させていただき、基礎看護教育の意義や面白さを実感することができましたし、教育者としてここまで育てていただき感謝しております。研究では、人間健康科学系専攻の先生方をはじめ、附属病院、学外の研究者、医療スタッフの方々とさまざまに連携し活動させていただく中で、成果を世界に向けて発信し、人の健康生活に貢献しようとする先生方のエネルギーとマインドに感銘を受け、私自身もそうありたいと取り組んできた10年間でした。今後もこの人間健康科学系専攻で学ばせていただいたことを糧に、邁進して参りたいと存じます。

長い間、ご指導、ご支援くださいました人間健康科学系専攻の先生方ならびに職員の方々に心よりお礼申し上げます。

退職のご挨拶

元リハビリテーション科学コース（作業療法学講座）助教 松林 潤

2007年4月より2019年3月までの12年間、作業療法学講座にてお世話になりました。経験のない私にさまざまなチャンスを与えてくださった先生方と、素人の授業や研究指導に付き合ってくれた学部生の皆さん、大学院生の皆さんに、心から感謝しています。

現在は本学の社会健康医学系専攻（医療統計学分野）にて、大学院生として20代前半の院生さんたちと共に学んでいます。2年後には生物統計家として国内の大学病院に勤務することになると思います。

人間健康科学科・人間健康科学系専攻のさらなる発展を祈念しております。



就任のご挨拶

リハビリテーション科学コース 教授 青山 朋樹

はじめまして。2018年10月1日付で京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻リハビリテーション科学コース理学療法学講座の教授として就任しました青山朋樹と申します。

私は1994年に群馬大学医学部を卒業し、同年に京都大学医学部附属病院整形外科に入局しましたので、卒業時から数えますと25年の歳月が流れたこととなります。入局後2000年に至るまでは、研修医として医療基礎技術をじっくり身につけるには十分な期間でありました。2000年に大学院生として学生生活を始めてみますと、医学界にはとても大きな動きがありました。ヒトゲノムの解読、研究倫理の変革、再生医療の隆盛などです。幸運なことに、これらのプロジェクトに大学院生、再生医科学研究所の助教を通して関わる事ができましたが、自分自身のテーマとして持ち続けていたのはリハビリテーションです。大学院に戻ってくるまでの6年間に臨床現場で学んだことは、疾病の治療は患者さん自身の治癒力によって促されるものであり、手術治療も薬物治療もそれを促進するきっかけであるということです。リハビリテーションも治癒促進を担うものでありますが、リハビリテーションが持つさまざまな局面で展開できるリソースやノウハウは、これまでに点で行われていた治療を、一本の線あるいは三次元的に展開することを可能にする事から更に大きな可能性を秘めていることに気がつきました。これはおそらく看護についても同様の事が言えるのではないのでしょうか。

再生医学の目指すものは「人体の組織が欠損した場合に、体が持っている自己修復力を引き出し、その機能を回復させる医学」であります。これはリハビリテーションがこれまで目指してきたことや行ってきたことと同じです。これまで再生医学は分子や細胞を対象にし、リハビリテーション医学は個体や社会を対象にしていたことから、なかなか交わることがありませんでしたが、リハビリテーション医学の領域でも細胞生物学や分子生物学的な検証がされるに至り、両者は出会い、またとても相性が良い事から相補的な効果が期待できます。ミクロの方向だけでなく、メガマクロの方向に目を向けると、ウェアラブル端末やビッグデータ、人工知能といった新領域とも極めて相性が良く、リハビリテーションはこれらの新しい領域との融合でさらに発展できる可能性があります。幸いなことに人間健康科学系専攻はそれらの新領域を牽引する拠点の近くに位置し、多くの優秀な学生を擁している事から、大きなアドバンテージを有しております。この幸せな環境で、新しいリハビリテーションを牽引できる人材を養成してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



就任のご挨拶

ビッグデータ医科学部門 特定教授 上久保 靖彦

2018年12月1日付で、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻ビッグデータ医科学部門の特定教授として就任いたしました。この紙面をお借りいたしまして皆様に謹んでご挨拶を申し上げます。

私は平成8年兵庫医科大学を卒業し、大熊稔教授主宰の京都大学（第一内科）に入局し、内科医師のキャリアを開始いたしました。京都大学医学部附属病院、兵庫県立尼崎病院での研修を経て、大学院帰局後は、故・内山卓教授に師事し、血液腫瘍内科臨床、基礎研究（細胞周期研究）、教育に携わってまいりました。修了後は、米国立衛生研究所（NIH）/国立ヒトゲノム研究所（NHGRI）研究員として、フランス・コリンズ所長（現NIH所長・ヒトゲノム

プロジェクト統括責任者)、ポール・リュウ博士(現 NIHGRI Deputy Scientific Director)のご指導の下、白血病の発症機構を解明するため、6種類の白血病ノックインマウスを樹立し、癌抑制因子がむしろ Oncogenic 因子として、癌に逆説的に要求されることを突き止めました。帰国後は、東京大学疾患生命工学センター放射線分子医学(宮川清教授)助教、血液・腫瘍内科第6研究室(旧・沖中研究室・高久史磨先生の血液研究室)室長・東大病院無菌治療部病棟医長に採用いただき、造血器腫瘍の臨床・教育・研究から、東大第三内科の驚異的なスピード感や施設間ネットワークの重要性を学びました。抗がん剤開発研究に特化するため大阪大学・金田安史医学部長主催の遺伝子治療学講座の助教として基礎研究と臨床応用研究の両輪を高度にリンクさせたイノベーション・研究手法を学ばせていただいたことはかけがえのない財産です。2013年より京都大学医学部人間健康科学科・大学院医学研究科人間健康科学系専攻・検査応用開発学・准教授に採用いただきました。足立壯一教授のご高配の元、血液内科臨床に従事しつつ、遺伝子スイッチ法を用いた RUNX 阻害剤(Chb-M)開発(AMED 革新的バイオ医薬品創出基盤、産学連携医療イノベーション創出プログラムセットアップスキーム「ACT-MS」、創薬等ライフサイエンス研究支援基盤事業: BINDS などの支援)、スパコンシミュレーション法(奥野恭史教授)を用いた低分子化合物開発により、白血病、肺癌、大腸癌、胃癌、脳腫瘍、腎癌、膵癌、小児癌(神経芽細胞腫、骨肉腫、MRT)等多彩な癌に対する抗がん剤開発を行っています。今後はライフサイエンス領域でのビッグデータの利活用、医学領域におけるデータサイエンスを世界的にリードする人材の育成を目指すビッグデータ医科学分野(奥野恭史教授)で、基礎・創薬研究と教育に邁進していく所存です。同窓、諸先輩先生方のご指導ご鞭撻を今後も賜りますようお願い申し上げます。

就任のご挨拶

看護科学コース 特定教授 西垣 昌和

5年間の基礎看護学講座での任を終え、もう1年臨床看護学講座にてお世話になることになりました。本紙を借りまして謹んで御礼申し上げます。

私事ですが、今年で私が看護の勉強を始めてからようやく20年になります。看護への理解が深まるにしたがって、看護という仕事そのものや、その基盤としての看護学の重要性を益々感じるようになってきております。一方で、アカデミアの観点から看護の20年間を振り返ってみる時、次の20年のために大きな軌道修正の必要性を感じずにはいられません。

20年前、看護系大学の数は70にも達していませんでした。さらにそこから10年、看護師等の人員確保に関する法律が制定(平成4年)される以前にさかのぼれば、わずか9校でした。そこから、上記人確法の制定と、学士号を持った看護師の割合が高い医療施設ほど患者の死亡率が低いというデータが米国(JAMA. 2002 PMID: 12387650)から公表されたことを推進力として、看護系大学は現在では280校を超えています。20年前からすれば4倍、30年前からすれば30倍以上にもなる看護系大学の粗造が、その教育・研究の質低下を招くことは必然ともいえます。教育については、その在り方を検討する委員会の設置や、モデル・コア・カリキュラムの策定等の取り組みがなされています。しかし、研究に関する目立った取り組みはなく、2004-2013年の10年間に、全国立大学の看護系教員の71.3%が共著を含め1本の英語論文も出版していないという衝撃的な論文が出版される事態となっています(Nurs Educ Today. 2016 PMID: 26718538)。このような事態に対し、リーディングスクールである本学が、どのような取り組みと、それによる実績を示すことができるかが、看護アカデミアの将来を左右するといっても過言ではありません。与えられた1年間で、私なりの取り組みをしてみたいです。よろしくご指導のほどお願いいたします。

着任のご挨拶

看護科学コース 特定准教授 岡本 里香

平成 30 年 11 月 1 日付で、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻臨床看護学講座（ビッグデータ医科学）の特定准教授に着任しました岡本里香と申します。本誌をお借りして、皆様に着任のご挨拶を申し上げます。

私は、平成 28 年 1 月に兵庫医科大学臨床研究支援センターに着任し、現在、講師として、医師主導治験・特定臨床研究支援部門の部門長を務めております。京都大学とはクロスアポイントメント制度を活用し、現在両学に在職しております。両学共に、過去約 7 年間、独立行政法人医薬品医療機器総合機構において、医薬品の承認審査から製造販売後の安全性監視に至る医薬品ライフサイクルに行政側として携わった経験を活かし、兵庫医科大学では“人”によって、治験あるいは臨床研究デザインを立案・実施し、そして、京都大学では“AI”によって医薬品・医療機器等の臨床開発を行うことを目指しております。皆様のご指導ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。



着任のご挨拶

検査技術科学コース 准教授 野中 元裕

4 月より人間健康科学系専攻検査技術科学コースに着任しました野中元裕と申します。私は、2008 年に京大薬学研究科にて川寄敏祐先生のご指導の下で学位を取得後、立命館大学、米国 Sanford Burnham Prebys Medical Discovery Institute、(国)産業技術総合研究所、京都大学薬学研究科を転々とした後に、本人間健康科学系専攻にお世話になることになりました。学生の頃から糖鎖生物学を軸として、癌やアレルギー疾患が特定の糖鎖構造とどのように関わるかについて興味を抱き、基礎研究に没頭していたつもりですが、産総研で行った悪性腫瘍標的ペプチドの研究から創薬研究、ベンチャーの立ち上げまで経験する様になりました。やはり自分は基礎研究がやりたいと思い直し、2017 年に産総研から京大に移ってきた次第です。現在は、ファージディスプレイ法を武器にして、難治性疾患の新しい診断法をみつけないかと夢を抱きながら、学生さんと研究を始めております。いつまでもこの初心を忘れない様にして、少しでも本専攻の発展に貢献できればと思っております。着任後まだ日が浅く、専攻の先生方にはお世話になることが多いかとは思いますが、どうかご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

着任のご挨拶

検査技術科学コース 准教授 徳野 治

2019 年 4 月 1 日付で、医学研究科人間健康科学系専攻 検査応用開発学分野の准教授に着任いたしました。この場をお借りして、ご挨拶を申し上げます。

私は前身校である京都大学医療技術短期大学の衛生技術学科を卒業し、臨床検査技師国家資格を取得しました。ただしその後、神戸大学医学部附属病院に入職するまでの 10 年間は、アポトーシス、DNA 複製と修復、突然変異頻度など普遍的な生命現象に興味をもちながら、基礎研究の分野を渡り歩きました。

ご縁あって入職した神戸大学病院の検査部には 9 年間在職し、微生物検査、一般検査、輸血検査を中心に、採血業務、夜間休日の当直も含めて、生理機能検査以外はほとんどの検査業務を経験させていただきました。感染制御部 (ICT) も兼任し、臨床検査技師の上位資格である 2 級臨床検査士 (微生物学) を取得しました。

あるきっかけから、2012年に転じた京都大学 iPS 細胞研究所 (CiRA) では細胞調製施設に所属し、これまでの経験を活かして、細胞製品の無菌試験やウイルス検査などを自前の設備で可能とする微生物 (汚染) 検査室の立ち上げと運営に尽力しました。ただ、その後本格的に教員の道へ進もうと思うきっかけとなったのも、ここで、細胞調製や品質試験を担う専門的人材を供給する定常的システムがほとんど整備されていない現状に直面し、大いに悩んだからでした。

このたびの着任にあたり「高度臨床検査技師養成大学院」のお話をうかがったさい、これは私が抱えていた問題の解決にむけて尽力できるかもしれないと感じました。今後、医学部附属病院や iPS 細胞研究所等はもちろん、必要があれば他大学とも連携しながら、臨床現場で指導的役割も担う高度専門職や、新しい医療を開拓し発展させる基礎・臨床研究者、そしてそのような臨床経験と研究経験を併せ持つ教育者の育成も視野に入れて邁進する所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

着任のご挨拶

看護科学コース 特定助教 佐藤 憲明

平成 31 年 10 月 1 日付で、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻ビッグデータ医科学分野の特定助教に着任致しました佐藤憲明と申します。本誌をお借りして、皆様に着任のご挨拶を申し上げます。私は元々京都大学医学研究科腎臓内科学の大学院生として研究を開始しました。ご縁があり腎臓内科学柳田教授のもとより、ビッグデータ医科学奥野教授の元に出向という形で在籍させて頂き、電子カルテデータやオミクスデータの解析に取り組んできました。腎臓内科は慢性腎臓病を中心に幅広い疾患を診療します。慢性腎臓病は進行を遅らせ腎代替療法に至ることを避ける治療が主体です。様々な原因で腎機能低下が起こりますが、大規模データを利活用し、その原因の探求や予測を行うことにより、将来的に患者様に役立つ成果を出せるよう尽力して参ります。臨床医として培った目線から、情報学的なアプローチを用いてこのような課題を解決していきたいと考えております。まだまだ未熟では御座いますが、今後皆様からのご指導ご鞭撻を何卒宜しくお願ひ申し上げます。

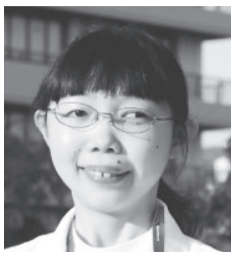
着任のご挨拶

看護科学コース 助教 古谷 和紀

2019 年 4 月 1 日付けで、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻臨床看護学講座生活習慣病看護学分野の助教として着任いたしました古谷和紀と申します。本誌をお借りして皆さまに着任のご挨拶を申し上げます。

私は、高齢者ケア施設で介護士としての社会人経験を経て、看護師資格を取得し、滋賀医科大学医学部附属病院、東京大学医学部附属病院で外科、救急、ICU など急性期看護領域での看護実践に従事して参りました。そのなかで、急性期医療における高齢者ケアの質の向上を臨床実践課題としており、認知症やフレイル状態にある高齢者の権利を護り、心身を脅かさずに最善の医療を提供することをモットーに実践、研究に取り組みながら、石川県立看護大学大学院老人看護専門看護師養成課程を修了し、2012年に老人看護専門看護師の認定を受けております。そして、同時期に京都大学医学部附属病院に入職し、老年内科等の内科系診療科の副看護師長として活動しながら、認知症ケアや倫理調整など組織横断的に老人看護専門看護師としての活動も展開してきました。現在は看護部管理室の教育部門で臨床看護教育を担っております。

このたび、ダブルポイントメント教員として着任いたしました。任教授のもとで慢性疾患看護専門看護師を育成するとともに、私自身も高度実践看護師としての能力を高めていながら、臨床と教育・研究の橋渡し役として精一杯努力していく所存でございます。今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



着任のご挨拶

リハビリテーション科学コース 助教 田畑 阿美

平成 31 年 4 月 1 日付で、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻リハビリテーション科学コース作業療法学講座の助教に着任いたしました田畑阿美と申します。本誌をお借りしまして、皆様にご挨拶申し上げます。

私は幼少期の自身の経験を通して、医療人として生きていくことに強い憧れと使命感を持ち、平成 20 年に京都大学医学部人間健康科学科作業療法学専攻に入学しました。卒業後は、同大学院に進学し、修士・博士後期課程を通して、坪山直生 教授、加藤寿宏 准教授をはじめ、多くの先生方のご指導を賜り、がんのリハビリテーションに関する研究に携らせて頂き、平成 30 年に博士後期課程を修了いたしました。

また、臨床実践では、平成 24 年からは時間雇用職員、平成 28 年からは京都大学医学部附属部病院リハビリテーション部の職員として、作業療法の実践や小児・成人の脳腫瘍の患者さまとご家族の支援、臨床研究に携わらせて頂くことができ、感謝申し上げます。

最後になりましたが、この度、母校である京都大学で、教員として研究、教育、臨床に携わらせていただく機会を頂きましたことを非常に嬉しく、有難く思っております。ご迷惑をおかけすることも多々あるかと存じますが、目の前の 1 つ 1 つのことに精一杯、丁寧に取り組み、一人の作業療法士、研究者、教育者として、京都大学の発展と小児・成人を含めたがん患者さんやご家族の支援に寄与できるよう、精進して参る所存です。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

着任のご挨拶

リハビリテーション科学コース（課題解決型高度医療人材養成プログラム）

特定助教 趙 朔

平成 31 年 4 月 1 日付で、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻の文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム「発達症への介入による国民的健康課題の解決」の特定助教に着任しました趙朔と申します。本誌をお借りして、皆様にご挨拶申し上げます。

私は、高知大学理学部数理情報学科を卒業後、岡山大学大学院自然科学研究科博士前期課程、京都大学医学研究科人間健康科学系専攻博士後期課程を修了しました。平成 26 年に博士号取得後は、幸いにも日本学術振興会の外国人特別研究員に採用された。これまで、主に自閉スペクトラム症 (autism spectrum disorders: ASD) の心理と神経メカニズム解明の研究を行って参りました。従来の精神疾患と異なり、ASD の人に有効な治療をもたらすには、医師による診療のみならず、ASD の精神生理を踏まえたリハビリテーション、心理教育、生活・職業指導、社会技能訓練などが必要であります。ASD のメンタルヘルスに精通し、ASD の多様な健康問題に対応し得る医療者・医療関連職を系統的に養成する施設が存在しないのが現状である。この現状を解決するために、当プログラムは保育、教育、就労、社会生活などライフステージを通じて生じる課題に対し適切に対応し得る高度専門人材を育成するプログラムであります。今後は、このプログラムを通して、研究の面だけではなく、教育の面にも、ASD という特性を広い視野から眺めることのできる高度専門人材の育成に貢献していく所存です。最後になりましたが、今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



着任のご挨拶

リハビリテーション科学コース（課題解決型高度医療人材養成プログラム）

特定助教 入江 啓輔

2019年4月1日付で、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 リハビリテーション科学コース 作業療法学講座に特定助教として着任いたしました入江啓輔と申します。本誌をお借りして、着任のご挨拶をさせていただきます。

私は長崎大学医学部保健学科作業療法学専攻を卒業後、手外科領域の作業療法の臨床および研究に従事したいという思いから、金沢医科大学病院で6年間の臨床経験を積みました。同時に、金沢大学大学院医薬保健学総合研究科の博士課程に入学し、西村誠次教授のご指導のもと、手の巧緻性を評価する検査機器の開発に関する臨床研究を行いました。卒後は、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の東登志夫教授の元で客員研究員として、運動イメージに関する研究を行ってきました。

京都大学では、課題解決型高度医療人材養成プログラムにて自閉症スペクトラム症に対する高度専門人材の育成の支援に携わらせていただきます。これまで学んできたことを新たな分野に応用し、発展させていく所存であります。

最後になりましたが、今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

着任のご挨拶

近未来型人間健康科学融合ユニット 特定助教 島 淳

平成31年4月1日付で京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻近未来型人間健康科学融合ユニット特定助教に着任しました島 淳と申します。この度、本誌をお借りし皆様に着任のご挨拶を申し上げます。

私は奈良県出身で平成20年に日本医科大学医学部医学科を卒業後、京都大学医学部附属病院にて初期研修医として臨床経験を開始したのち、大阪府済生会野江病院および天理よろづ相談所病院にて脳神経内科医としての臨床に従事して参りました。その後、平成27年4月より脳病態生理学講座臨床神経学に博士課程として進学し研究活動を開始いたしました。臨床神経学高橋良輔教授および人間健康科学系専攻澤本伸克教授に御指導いただき、主として神経変性疾患であるパーキンソン病をはじめとするパーキンソン症候群をきたす疾患を対象として、脳MRIやPETなどの画像データ及び臨床症状データを用いた解析により臨床的な側面に関連した研究を行って参りました。

神経変性疾患に限らず脳に関連した画像解析の手法を含めた臨床研究は国内外において注目されており、実際にヒトから得られた臨床情報を加味した検討により新たな知見を得る手法は今後益々発展する分野となることが想定されます。私個人としてもより研鑽し、本学における研究の発展に少しでも協力できるよう、非力ながら本専攻での教育や研究活動に尽力致します。最後になりましたが、今後とも皆様のご指導ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

第 31 回健康科学市民公開講座開催報告

学術委員会委員長 リハビリテーション科学コース 教授 山田 重人

平成 30 年 10 月 20 日（土）に第 31 回健康科学市民公開講座を開催いたしました。今回取り上げたテーマは「再生医療とロボットが拓く最先端リハビリテーションの未来」です。リハビリテーションの歴史に始まり、その最先端と新しい技術である再生医療およびロボット技術、さらにはその融合に至るまでを、3つの講演およびブース体験により参加者の皆さんに実感していただくことを目的として企画いたしました。

講演 1：最先端のリハビリテーション

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻リハビリテーション科学コース教授の青山朋樹講師から、リハビリテーションの歴史的発展、様々な技術との融合技術、そして今回のテーマであるリハビリテーション技術と再生医療およびロボット技術との融合についてご解説いただきました。リハビリテーションの語源に始まり、多彩な内容を分かりやすくお話しいただきました。



講演 2：脳損傷に対する細胞治療とリハビリテーションの可能性

京都大学 iPS 細胞研究所研究生の下川能史講師から、脳損傷の発症機序、現在の治療方法、iPS 細胞を含む細胞治療の可能性についてご解説いただきました。そして細胞治療にリハビリテーションを組み合わせた際の効果について最新の研究成果をお話しいただきました。リハビリテーション技術と再生医療技術の融合がいかになされているかを学ぶ良い機会になりました。



講演 3：脳神経障害に対するロボットリハビリテーション

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻リハビリテーション科学コース講師の大畑光司講師から世界に先駆けて開発されている日本のアシストロボットの紹介とその運用方法についてご解説いただきました。特に大畑先生が開発に携わっているアシストロボットについては動かない手足を無理やり動かすのではなく、以前に行っていた良い歩行を思い出す、あるいは正しい歩行を身体に記憶するためのツールとしてのコンセプトをお話しいただきました。



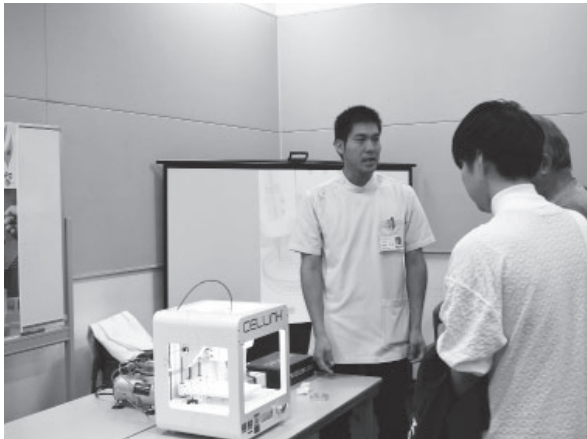
ブース体験（脳梗塞モデル脳スライス、三次元プリンタによる三次元組織、ロボットデモ）

今回の健康科学市民公開講座では、参加者の皆さんにも最先端の研究に触れていただくために、バイオ 3D プリンターのデモ、脳梗塞モデルマウスの脳スライスとその組織切片観察、脳梗塞が起きる場所による症状の違い、脳手術の動画、アシストロボット装着体験をしていただきました。最初は恐々遠くから眺めていた参加者の皆さんも次第にさまざまなものを手に取って眺めてみたり、積極的に参加するなど最先端の研究技術に触れていただきました。

質疑応答

最後に、15 分ほどの時間で、事前に募った質問事項について講師の先生にお答えいただく質疑応答を行いました。多くの質問が寄せられ、時間内に様々な質問を取り上げるのに苦労しましたが、講師の先生方には簡潔かつ的確にご回答いただきました。

今回は 80 名の方にご参加いただき、アンケートでは「大変よかった」29、「よかった」22、「ふつう」2、「よくなかった」0、「無回答」2 と大変好評な評価をいただきました。「講演もすばらしかったですが、体験ブースと質問コーナーもおもしろかったです」、「リハのあり方の再認識ができた」、「最新の技術、研究の“何が良いか”、“どう必要か”ということがよく分かった」などのご意見をいただき、ご参加いただきました方々の理解につながる場となりました。



三次元プリンタによるデモンストレーション



アシストロボット装着体験

2018 年度オープンキャンパス

2018 年度オープンキャンパスは 2018 年 8 月 9 日（木）に前年度と同様、A 時間帯、B 時間帯の 2 回にわたって行われました（表 1）。全体説明会では、足立学科長の挨拶のあと、各コースの紹介がありました。その後、各コースのブースに分かれて、実習等の体験、研究室等の施設見学、学生個別相談が行われ、アンケート調査からも、いずれも好評でした。参加者は表 2 に示しますが、A 時間帯は女子 169 名、男子 54 名の計 223 名、B 時間帯は女子 172 名、男子 44 名の計 216 名が参加しました。コース別では看護 123 名、理学 55 名、作業 8 名、総合 205 名でした。また、都道府県別では京都 50 名、大阪 60 名を始めとして東北や九州からも参加者がありました。2019 年度は 8 月 8 日（木）に行われる予定で、今後の京都大学医学部人間健康科学科に多くのやる気のある学生のリクルートのために、重要なイベントであると思われます。

表 1 オープンキャンパス 2018 スケジュール

A 時間帯（10：00～12：00）		B 時間帯（13：00～15：00）	
9:30	全体説明会受付開始 ※全体説明会会場：第 9 講義室	12:30	全体説明会受付開始 ※全体説明会会場：第 9 講義室
10:00	開会 学科長あいさつ	13:00	開会 学科長あいさつ
10:05	各コースの紹介 平成 30 年度以降の入学について	13:05	各コースの紹介 平成 30 年度以降の入学について
10:30	相談コーナー ・入試相談、学生受験相談 各コースの説明会、体験ブース ・先端看護科学コース ・先端リハビリテーション科学コース （理学療法学講座、作業療法学講座） ・総合医療科学コース	13:30	相談コーナー ・入試相談、学生受験相談 各コースの説明会、体験ブース ・先端看護科学コース ・先端リハビリテーション科学コース （理学療法学講座、作業療法学講座） ・総合医療科学コース
12:00	終了	15:00	終了

表 2 オープンキャンパス 2018 参加者状況

●参加者数（人）

	参加者数		高 1		高 2		高 3		既卒生		その他	
	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子
A 時間帯	169	54	51	24	77	21	29	4	12	5	0	0
B 時間帯	172	44	85	19	65	15	14	6	1	2	7	2
計	341	98	136	43	142	36	43	10	13	7	7	2
	439		179		178		53		20		9	

・当日参加者（内数）：A 時間帯 23 名 / B 時間帯 19 名

●コース別人数（人）

	看護		リハ（理学）		リハ（作業）		総合		未定	
	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子
A 時間帯	56	1	23	10	5	1	68	32	17	10
計	57		33		6		100		27	
	看護		リハ（理学）		リハ（作業）		総合		未定	
	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子
B 時間帯	61	5	18	4	2	0	76	29	15	6
計	66		22		2		105		21	

●都道府県別人数（人）

都道府県名	A 時間帯	B 時間帯	計
北海道	1	0	1
青森	0	0	0
秋田	0	1	1
岩手	0	0	0
宮城	1	0	1
山形	0	1	1
福島	1	1	2
茨城	3	1	4
千葉	1	1	2
栃木	2	1	3
群馬	1	0	1
埼玉	4	2	6
東京	7	11	18
神奈川	6	3	9
山梨	0	0	0
新潟	0	0	0

都道府県名	A 時間帯	B 時間帯	計
長野	2	0	2
静岡	6	5	11
愛知	8	8	16
岐阜	8	6	14
三重	4	14	18
富山	0	2	2
石川	3	3	6
福井	1	8	9
滋賀	17	6	23
京都	34	16	50
大阪	32	28	60
兵庫	29	12	41
奈良	7	9	16
和歌山	2	11	13
徳島	3	1	4
香川	0	20	20

都道府県名	A 時間帯	B 時間帯	計
愛媛	8	9	17
高知	0	2	2
岡山	1	7	8
広島	17	5	22
鳥取	0	3	3
島根	0	1	1
山口	2	1	3
福岡	4	6	10
大分	2	2	4
佐賀	3	2	5
長崎	1	1	2
熊本	0	2	2
宮崎	0	0	0
鹿児島	1	4	5
沖縄	0	0	0
不明	1	0	1

●相談コーナー参加者数

- ・教員入試相談コーナー 24 名
- ・学生受験相談コーナー 33 名

人間健康科学系専攻から博士が 14 名誕生しました

博士授与者と論文題目

山之内 智 子

論文題目：Factors Associated with Worsened or Improved Mental Health in the Great East Japan Earthquake survivors

(東日本大震災の被災者における精神健康度の悪化・改善に関連する要因)

森 安 朋 子

論文題目：Effects of monthly feedback of VFA measured by dual BIA method in Japanese patients with obesity: a randomized controlled study

(日本人肥満症患者における dual BIA 法により測定された内臓脂肪面積の毎月のフィードバックの効果：ランダム化比較試験)

増 田 健 太

論文題目：PAS positivity of erythroid precursor cells is associated with a poor prognosis in newly diagnosed myelodysplastic syndrome patients

新たに診断された骨髄異形成症候群患者の PAS 陽性赤芽球は不良な予後に関連する

田 畑 阿 美

論文題目：Changes in upper extremity function, ADL, and HRQoL in colorectal cancer patients after the first chemotherapy cycle with oxaliplatin: A prospective single-center observational study

(大腸がん患者におけるオキサリプラチン初回投与後の上肢機能、ADL および HRQoL の変化に関する単施設前向き観察研究)

清 水 朋 子

論文題目：Effect of electrical stimulation of the infralimbic and prelimbic cortices on anxiolytic-like behavior of rats during the elevated plus-maze test, with particular reference to multiunit recording of the behavior-associated neural activity

(高架式十字迷路テスト中のラット抗不安様行動に及ぼす下辺縁皮質および前辺縁皮質の電気刺激の影響とその行動に関連する神経活動のマルチユニット記録)

吉 川 有 葵

論文題目：Associations between physical and psychosocial factors and health-related quality of life in women who gave birth after a kidney transplant

(腎移植後に出産した女性の身体的および心理社会的要因と健康関連 QOL の関連)

林 文 子

論文題目：Daily Walking Is Effective for Management of Pregnant Women with Gestational Diabetes Mellitus.

(日常歩行は妊娠糖尿病妊婦の管理に有効である)

野 田 泰 葉

論文題目：Fibronectin type III domain-containing protein 5 interacts with APP and decreases amyloid β production in Alzheimer's disease.

(Fibronectin type III domain-containing protein 5 は、アルツハイマー病におけるアミロイド β 前駆体タンパク質と結合し、アミロイド β の産生を抑制する。)

喜屋武 弥

論文題目：Ultrasound Parameters for Human Osteoarthritic Subchondral Bone Ex Vivo: Comparison with Micro-Computed Tomography Parameters

(ヒト変形性膝関節症に伴う軟骨下骨変性を捉える超音波指標：マイクロ CT パラメータとの対比による Ex Vivo 研究)

早乙女 智 子

論文題目：Sexual Dysfunction and Satisfaction in Japanese couples During Pregnancy and Postpartum.

(妊娠中と産後の日本人カップルの性機能障害と満足度)

季 翔

論文題目：The association of variations in hip and pelvic geometry with pregnancy-related sacroiliac joint pain based on a longitudinal analysis

(妊娠期仙腸関節痛と骨盤帯ジオメトリーの関連)

山 縣 桃 子

論文題目：The effects of fall history on kinematic synergy during walking

(転倒歴が歩行中の運動学シナジーに与える影響)

鈴 木 祐 介

論文題目：Home exercise therapy to improve muscle strength and joint flexibility effectively treats pre-radiographic knee OA in community-dwelling elderly: a randomized controlled trial.

(筋力と関節柔軟性の改善を目的とした自宅での運動療法は、地域在住の初期変形性膝関節症患者に効果的である：ランダム化比較試験による検討)

兼 重 美 希

論文題目：A descending circuit derived from the superior colliculus modulates vibrissal movements

(ラットのヒゲ運動における上丘からの下行性神経調節機構)

博士号取得までとこれから

森安 朋子

この度はこのような寄稿の機会をいただきまして誠にありがとうございます。

私は大阪府下の私立大学病院で看護師として外科病棟で勤務した後、附属看護専門学校で専任教員として主に生活習慣に関する講義を担当していました。看護系大学の設立が増えている中、佛教大学保健医療技術学部看護学科で教員のお話をいただき、研究者としての経験を積み重ねていく上でのスタートとして、2012（平成 24）年に人間健康科学生活習慣病看護学分野博士後期課程に進学しました。京都大学は常識に囚われずどんな意見や考えも否定することなく受け入れていく型にはまらない自由な雰囲気であることを肌で感じました。また修士号を取得後 3 年のブランクがあったため一からやり直すつもりで修士課程の講義も聴講しました。研究テーマは生活習慣に関連した肥満予防です。京都大学とオムロン社が新規に共同開発した内臓脂肪測定装置デュアルスキャンを用い、肥満症治療を受けている患者に対し月 1 回の内臓脂肪のフィードバックが内臓脂肪に及ぼす効果を検討しました。研究計画書作成、データ収集、論文執筆、投稿、学位審査と、6 年 4 カ月という長い道のりでしたが、2018（平成 30）年 7 月に博士号（人間健康科学）を取得することが出来ました。さらに、この論文が 2018 年度第 15 回佛教大学学術賞（自然科学部門）を受賞することができ、このことは非常にうれしくあきらめなくてよかったとしみじみ思いました。

現在は、佛教大学保健医療技術学部看護学科で教員をしながら、客員研究員として任和子先生のグループに所属し研究に関わらせていただいています。今後も京都大学にて学ばせていただいた経験を、様々な形で還元していきたいと考えます。

最後になりましたが、熱意あるご指導をいただいた細田公則先生、研究的な視野を広げて下さった任和子先生にはお世話になり心より感謝いたします。この場を借りて厚くお礼申し上げます。また、紙面には書ききれないほどの多くの方々のご協力もいただき、本当にありがとうございました。

社会人博士として得られたこと

増田 健太

2018年7月に博士号を取得しました増田健太と申します。2003年に京都大学医学部附属病院検査部に入職して以来、臨床検査技師として尿検査・血液検査・情報システム等の業務に従事しておりました。その臨床検査業務においては、先人が築き上げた検査技術を用いて診療に貢献することが主となっていますが、未来の臨床検査技師は、さらに新たな知見を見つけて外に向けて発信していくことが重要なことであると常より考えていたため、本学の博士課程に入学してそれを実現していこうと決意いたしました。

社会人として大学院に入学して、臨床検査業務を続けながら学術的研究に従事することは並大抵のことではないと感じる日々が始まりました。昼間は検査業務があるので、研究や過去の文献検索等は全て夕方以降となりますし、検査業務が繁忙期を迎えると研究がまったく進まない日々も続きました。

入学してから約7年という年月の中で、ゆっくりではありながらも少しずつ研究を進めていき学位論文を仕上げることができ、学位の取得にいたったわけですが、いま過去を振り返って、検査業務がそんなに繁忙でなければもっと短い年数で学位を取得できたのだろうか自問すると、そうではないように感じます。業務も研究もどちらにも精一杯取り組んだことで、プライベートな時間も少ししかない頭の上に何か黒いもやのかかっているような長い年月ではありましたが、そんな環境であったからこそ得られたものがあると思っています。「忙しいからできない」ではなく、「忙しいほど頑張る」という気持ちをこれからも忘れずに、今後の臨床検査業務に生かしていきたいと、決意を新たにしています。

大学と病院の双方が共に協力して躍進していけるよう、より一層精進してまいります。

博士号を取得して

清水 朋子

2018年11月に博士号を取得いたしました。まずは、不出来な大学院生であった私に辛抱強くご指導していただいた先生方、研究生活に安らぎを与えてくれた研究室の皆様へ心よりお礼申し上げます。

大学院に入学して博士号を取得するまで、およそ6年半を要しました。大学時代も京都大学にいましたので、10年以上も京都大学に通い続けたこととなります。10年という年月は言葉にするととても長く、重く感じますが、私の京都大学での学び、成長について考えると、10年分にふさわしい重みがあるとはとても言えません。それでも、現在も新たな場所で、新たなテーマを得て研究を続けさせていただいています。研究における自身の価値の大半は、大学で出会った人々に由来するものだと思います。多くの人、環境の助けを得て、ようやく研究者としてのスタート地点に立つことができましたので、これから、自分自身で価値を形成していけるよう、取り組んでまいります。



博士号取得を振り返って

吉川 有葵

私の研究人生を大きく変える転機となった出来事があります。それは、腎移植後に妊娠・出産を経験した患者さんとの出会いです。私は患者さんとの関わりの中で、子どもが欲しいという強い思いと妊娠・出産のリスクを恐れる思いが相まっていること、子ども中心の生活スタイルへの変化、育児疲労によって自身の健康管理が不十分となり入院を繰り返している現状を目の当たりにしました。看護師として臨床で働いていた当時は腎移植後に妊娠・出産する人はまだまだ少なく、十分な支援体制が確立されていない状況でした。腎移植を受けた患者さんが安全に安心して妊娠・出産・育児ができるよう「腎移植後に出産した女性の身体的および心理社会的要因と健康関連 QOL の関連」というテーマで博士の研究に取り組んでまいりました。

日本における症例数が少なく研究フィールドを確保すること、初めての国際誌への投稿に苦労しましたが、「この研究結果を絶対に臨床へ還元する！」という強い意志を持って、最後まで粘り強く研究に取り組めたのは、研究に賛同してくださった臨床の移植医、移植コーディネーター、看護師の方々、そして患者の皆様からの激励と期待があったからです。

最後になりましたが、研究にご協力頂きました患者の皆様、ご指導を頂きました諸先生方、励まし心の支えとなってくださった研究室の仲間、友人、家族、関わってくださったすべての皆様に関心より感謝申し上げます。

博士号を取得して

林 文子

2018年度に博士の学位を取得いたしました林文子と申します。この度は、このような貴重な機会をいただいたことに、心より感謝申し上げます。私は博士の学位取得に6年を費やし、足の裏のお米粒がようやく取れたことに、胸をなでおろしています。学位取得以前は、博士はエベレスト登頂に匹敵するものと捉えておりましたが、いざ取得してみると、富士山5合目にたどり着いたところだなという印象に変わりました。まだ自分の中に伸びしろがあると感じて、研究者として研鑽を積んで参ります。

恩師より「学位は大切です」と励まされてきましたが、まだ取得してから日が浅く、学位の大切さを実感するには至っておりません。しかし、お世話になった先生方に学位取得のご報告をした際に「林先生」と呼んでいただけたことは、博士になったことを実感する貴重な体験でした。先生という敬称に恥じぬよう、人間力も磨いていきたいと思えます。

最後になりましたが、長年に渡りご指導賜りました菅沼信彦教授、博士の学位申請にご尽力いただきました木下彩栄教授、お世話になりました多くの先生方にこの場を借りて深く御礼申し上げます。

博士号を取得して

野田 泰葉

この度はこのような寄稿の機会を頂きました事、まずは御礼申し上げます。

木下 彩栄教授の指導の下、生活習慣とアルツハイマー病との関係性に着目して研究を行ってまいりました。アルツハイマー病の根本治療薬がない現在では、予防や進行抑制のためのケアが重要視されており、その一つとして生活習慣への介入がアルツハイマー病予防に有効であると言われていたものの、科学的エビデンスが不足しています。このような背景から、生活習慣の改善によるアルツハイマー病予防のメカニズムを解明し、エビデンスに基づくケアに繋げることができればと思い、細胞生物学の側面からアプローチしてきました。看護科学コースの私にとって新たに勉強する事は一層多く、なかなか実験が進まず不安に苛まれる時期もありましたが、木下教授をはじめ神経内科の先生方による指導も仰ぎながら、自身の興味を赴くままに研究をさせて頂く事ができた環境に感謝いたしております。

現在は、本学「医学領域」産学連携推進機構に特定助教として所属し、研究成果を社会実装させるためのコーディネーター、またその仕組み作りのための研究に携わっております。医学分野では創薬や医療機器開発がその代表例でしたが、高齢社会や予防医療といったトレンドに従って、ヘルスケア研究全般への注目度が高まっております。現在の部署においても、木下教授とは在宅医療で活用できるデバイス開発に向けて、一緒にお仕事をさせて頂いております。研究生活を通して得た知識や自身の専門性も生かしながら、本学から生まれる研究成果を社会で実用化させるための支援に取り組んでまいりたいと考えております。今後とも宜しくお願い申し上げます。



「良い人環境に恵まれて」

喜屋武 弥

新たな研究テーマは、「変形性膝関節症（膝 OA）の早期診断の実現に向けて超音波による関節骨軟骨変性度の評価技術を確立すること」でした。同志社大学工学研究科超音波エレクトロニクス研究室で超音波物理に出会い、古野電気株式会社でソナー（音波で海中の物体を探知する装置）の研究開発に携わっていた私にとって、この研究テーマは、ヒトが対象という点で、これまでの研究とは異質なものでした。しかし、当時プレッシャーや不安というよりも、社会的意義の大きいこのテーマに挑戦できることに、ただ純粋に嬉しく興奮したことを覚えております。

本研究を進めるためには、工学だけでなく、医学研究のアプローチを知る必要がありました。関節軟骨の医学的知見に乏しかった私は、この分野で実績のある本学、黒木研究室の門を叩き、幸運にも共同研究の体制を構築することができました。研究を進めるなかで、単に骨軟骨変性を捉える超音波指標を見出すだけでなく、膝 OA の進行に伴う骨軟骨変性とは何か？ またその変性に対する超音波指標の応答メカニズムについて基礎的なレベルで深く探究したい、さらにこの機会を通して自己実現したいという思いが起り、社会人として本学博士後期課程に入学することを決めました。

本学では、膝 OA 進行に伴い変化する軟骨下骨形態の変性を μ CT で調べ、その変性に対する超音波指標の応答メカニズムについて明らかにし、学位を取得することができました。また本件に関連する技術の特許出願を通して、この仕事を研究のための研究ではなく、より実りあるものとして実感することができました。

振り返りますと、蓄積された研究室のノウハウ、実験設備もさることながら、良い指導者からの激励、優秀で熱い思いを持った研究室の皆様からの刺激と支援がありました。こうした良い人環境の中に身を置くことができたことで、私の成長があり、良い成果が得られたのだと思います。

最後になりましたが、これまで御指導を賜りました本学の黒木裕士先生、青山朋樹先生、西谷江平先生、伊藤明良

先生、ご助言、ご支援を賜りました研究室の皆様、京都医療センター中川泰彰先生、向井章悟先生、また、学位取得に際してご理解とご支援を賜りました古野電気株式会社に深く御礼申し上げます。



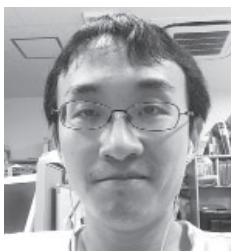
博士号を取得して

早乙女 智子

1986年に筑波大学医学専門学群を卒業以来、女性はどうぞ辞めると言われることに憤慨し、当直のある常勤産婦人科医として出産後も辞めずに頑張って勤務医をしてきました。2007年からWAS（World Association for Sexual Health：世界性の健康学会）に毎年出席して学会発表もするようになり、昨年からは学術委員もさせて頂けるようになりました。

様々な出会いや気づきから、きちんと学んで学会発表したい、もっと性科学を研究したいと思うようになり、菅沼信彦教授を指導教官として女性生涯看護学を学ばせていただきました。菅沼ゼミは性科学に関心の高い後輩も集まり、国内では類を見ない内容の濃いゼミだったと思います。お陰様で2019年3月にSexual Dysfunction and Satisfaction in Japanese Couples During Pregnancy and Postpartum（妊娠中と産後の日本人カップルの性機能障害と満足度）を学位論文として博士の学位を取得することができました。遅まきながら、多くの方に支えられて研究者の卵としての第一歩を踏み出すことができ感謝しております。

現在、産婦人科クリニック勤務の傍ら、公益財団法人レイ・パストゥール医学研究センター文理融合型先端医科学研究室に研究員として所属させて頂き、厚生科学研究費や民間の研究費取得に向けて書類作成をするという新たなチャレンジをしています。日本で「性科学」講座を立ち上げて、あの菅沼ゼミを再現するのが夢ですが、年齢的に教職はそろそろ厳しいかなとも思っています。少なくともその道筋だけでも開けるようにこれからも精進します。



博士課程で学んだこと

季 翔

2019年3月に博士後期課程を修了した季翔と申します。入学してから5年間にわたり、人間健康科学系専攻の教員、学生各位にお世話になり、心から感謝申し上げます。

中国でリハビリテーション科学を卒業した私は、広く知られてない知識を持つ誇りがある一方、自分のポテンシャルに認識不足で、さらに教育環境とソーシャルサークルの影響も含め、自分の未来が狭い範囲に限られると思っていました。自分の専門知識が他の汎用科学と比べ、さらに「分化」する能力が弱いと思っていました。本学の大学院課程に進学して以来、自分にとって最も成長したところは、「現場で臨床治療を補助する仕事」よりもっと広い可能性のある未来を見出すことができたということです。これは、私と同じぐらいの背景を持つ人の中で、なかなか貴重な経験だと思います。これからも、今まで学んだ知識と価値観を、今後の事業に活用していきたいと思っています。

私のポテンシャルを引き出すためには、先生と研究グループの皆様のご尽力が一番大事だったと思います。これまでご指導をいただいた黒木裕士教授、青山朋樹教授、伊藤明良助教をはじめとする先生方、大学院生及び研究員の皆様に心より感謝申し上げます。



博士後期課程を振り返って

山縣 桃子

平成 31 年 3 月に博士号（人間健康科学）を取得致しました、山縣桃子と申します。この度は、このような機会を頂きましてありがとうございます。

私は平成 28 年 4 月に本大学大学院 人間健康科学系専攻 理学療法学講座 運動機能開発学分野 市橋則明教授の研究室に博士後期課程入学致しました。大学院では主に、生体力学や運動制御の観点から高齢者の転倒メカニズムを探り、転倒予防に効果的なりハビリテーションの確立をめざして研究を遂行しておりました。研究結果は国内外の学術大会で発表させていただき、海外の方と研究について意見を交わす楽しさを感じることができました。さらに、在学中はアメリカ合衆国ペンシルバニア州立大学 運動制御分野の Mark Latash 教授のもとで約 1 年間の研究活動を行い、様々なバックグラウンドを持つ研究者達と研究計画を立て実行できたことは、私にとって貴重な財産となりました。課程を通じて学ばせていただいた多くの経験を実際のリハビリテーションの現場に還元するため、今後さらに研究を進めていきたいと考えております。

最後になりましたが、ご指導いただきました市橋則明教授、池添冬芽准教授、建内宏重特定准教授をはじめ、人間健康科学系専攻の先生方、研究室の皆様がこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。



博士号を取得して

鈴木 祐介

平成 30 年度に博士号を取得しましたリハビリテーション科学コースの鈴木祐介と申します。この度は貴重な機会をいただき、誠にありがとうございます。

私は博士後期課程入学後、変形性膝関節症の研究を進めてまいりました。自身の研究プロジェクトを進めていく中で、地域在住高齢者を対象とした計測会の運営や共同研究先との打ち合わせなど、研究に関わる様々な経験をさせていただき、研究に対する視野を養うことに繋がったと思っております。

博士後期課程修了後の現在は、新潟県という新しい環境で、大学教員として教育と研究に従事しています。今後も変形性膝関節症の研究活動を続けながら、学生教育や社会活動等を通じて、社会に貢献していきたいと考えています。

最後になりましたが、3 年間本当に丁寧にご指導いただいた青山朋樹先生に心より感謝致します。また、研究に協力して下さった参加者様・関係者の皆様、多くの意見交換をさせていただいた研究室の皆様へ深く感謝致します。そして、独断で決めた博士後期課程への進学に一切反対することなく、常に心の支えとなってくれた両親に、この場を借りて感謝申し上げます。

博士号を取得して

兼重 美希

私は、京都大学医学部保健学科作業療法学専攻を卒業し、3年間、作業療法士として実務経験を積んだ後、京都大学へ戻ってきました。元々、研究に対する興味は漠然とありましたが、臨床現場で運動障害を持つ患者様に出会ったことをきっかけとして、運動制御に関する研究がしたいと思うようになりました。修士、博士の5年間は、本学医学研究科の高次脳形態学教室に出向させていただき、研究を行いました。大変自由に研究をさせていただき、「自分で考える」ということについて、非常に考えさせられた時間となりました。言われたことをするというのではなく、自分で考えて研究を組み立て、新しい成果を出し、論文としてまとめるということは大変難しいと感じましたが、大学院生の間から主体的に研究に取り組むよう導いていただけたことは、とてもありがたいことだったと感じています。

私は今、東京都医学総合研究所の脳機能再建プロジェクトで、運動制御に関する研究をしています。臨床現場で、患者の望み通りに運動機能を回復させる難しさを感じたこと、患者の理想に寄り添い研鑽を続けるセラピストの姿に心を動かされたこと、これらの経験は、今でも私が研究を行う原動力になっています。未熟な点は多々ありますが、リハビリ医療の発展のための基盤となる研究ができるよう、今後も日々努力していきたいと思えます。研究指導をしてくださいました高次脳形態学教室の皆様と人間健康の三谷先生、松林先生をはじめ、いつもあたたかく見守ってくれる家族には、この場を借りて心より御礼申し上げます。

2019 年度入学試験結果

医学部人間健康科学科

コース・日程		募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
先端看護科学コース	特色	20	41	20	20
先端リハビリテーション科学コース (理学療法学講座)	特色	5	17	5	5
先端リハビリテーション科学コース (作業療法学講座)	特色	5	8	4	4
一括	一般	71	228	77	75
合計		101	294	106	104

医学研究科人間健康科学系専攻（修士課程）

コース	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
看護科学コース {専門看護師課程(内数)} 【高度実践助産学系(内数)】	28 【10】	25[4] {6[3]} 【11[0]】	19[2] {4[1]} 【8[0]】	16[2] {4[1]} 【6[0]】
検査技術科学コース	13	33[1]	29[0]	29[0]
リハビリテーション科学コース (理学療法学講座)	4	20[2]	15[0]	15[0]
リハビリテーション科学コース (作業療法学講座)	4	7[0]	7[0]	5[0]
合計	49	85[7]	70[2]	65[2]

[]の数は、社会人特別選抜(内数)

医学研究科人間健康科学系専攻（博士後期課程）

コース	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
看護科学コース	15	9	8	8
検査技術科学コース		4	3	3
リハビリテーション科学コース (理学療法学講座)		5	5	5
リハビリテーション科学コース (作業療法学講座)		3	3	3
合計	15	21	19	19

平成 30 年度修了・卒業生数

医学部人間健康科学科卒業生数

専攻	卒業生数
看護学専攻	64
検査技術科学専攻	38
理学療法学専攻	22
作業療法学専攻	19
合 計	143

※ H30.9 卒業生 1 名を含む。

医学研究科人間健康科学系専攻（修士課程）修了者数

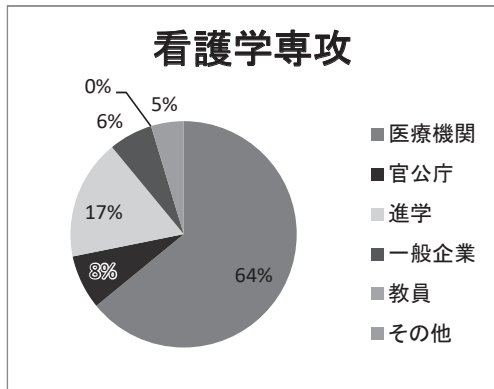
コース	修了者数
看護科学コース 【高度実践助産学系（内数）】	16 【9】
検査技術科学コース	28
リハビリテーション科学コース （理学療法学講座）	12
リハビリテーション科学コース （作業療法学講座）	8
合 計	64

医学研究科人間健康科学系専攻（博士後期課程）修了者数

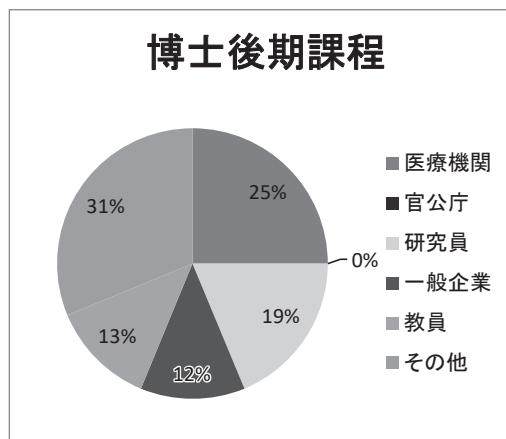
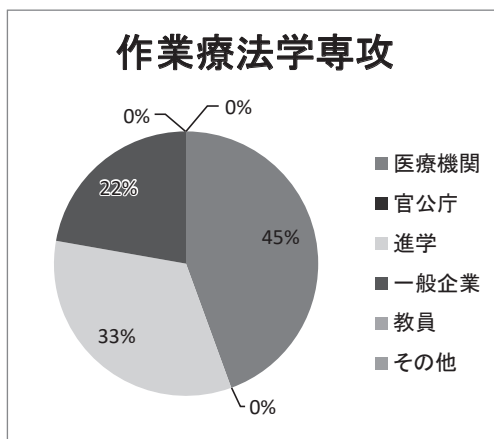
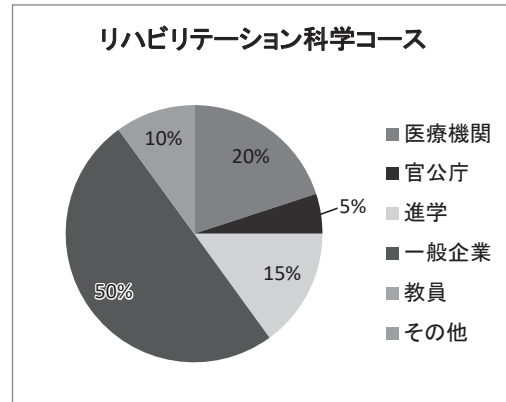
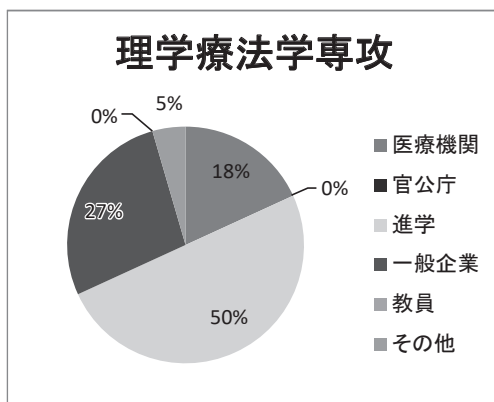
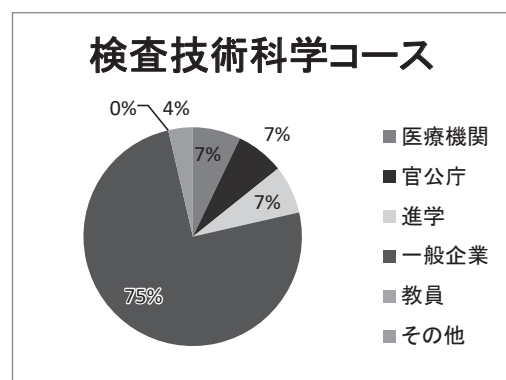
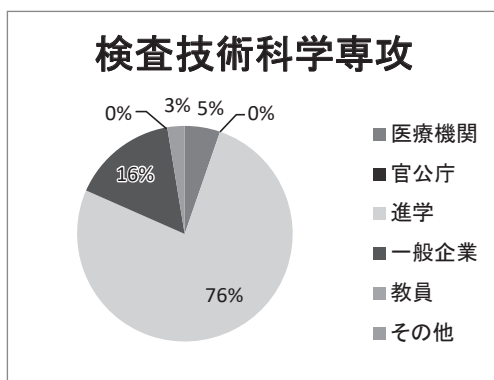
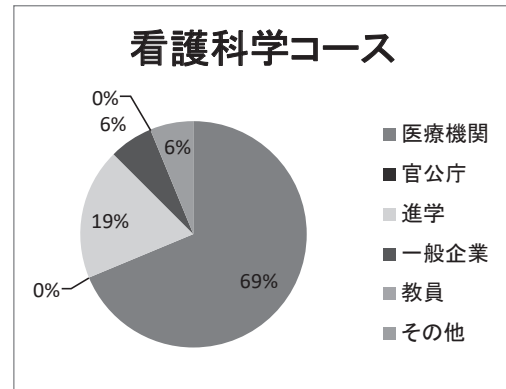
コース	修了者数
看護科学コース	6
検査技術科学コース	1
リハビリテーション科学コース （理学療法学講座）	4
リハビリテーション科学コース （作業療法学講座）	3
合 計	14

平成30年度(平成31年3月) 卒業・修了生の進路調査結果

■学部



■大学院(修士)



人 事 異 動

発令年月日	職 名	氏 名	所 属	異 動 事 由
平成				
30.6.30	助教	二宮 早苗	看護科学コース	辞職
30.6.30	特定研究員	藤原 大	看護科学コース	辞職
30.8.1	特定教授	竹松 弘	検査技術科学コース	辞職
30.10.1	教授	青山 朋樹	リハビリテーション科学コース	昇任
30.10.1	特定助教	佐藤 憲明	看護科学コース	採用
30.11.1	特定准教授	岡本 里香	看護科学コース	採用
30.12.1	特定教授	上久保 靖彦	検査技術科学コース	採用
31.3.1	特定教授	西垣 昌和	看護科学コース	採用
31.3.31	助教	松林 潤	リハビリテーション科学コース	辞職
31.3.31	助教	西村 亜希子	看護科学コース	任期満了
31.3.31	助教	長島 俊輔	看護科学コース	辞職
31.3.31	助教	片山 泰佑	看護科学コース	配置換
31.4.1	准教授	野中 元裕	検査技術科学コース	採用
31.4.1	助教	古谷 和紀	看護科学コース	採用
31.4.1	准教授	徳野 治	検査技術科学コース	採用
31.4.1	助教	田畑 阿美	リハビリテーション科学コース	採用
31.4.1	特定助教	趙 朔	リハビリテーション科学コース	採用
31.4.1	特定助教	島 淳	近未来型人間健康科学融合ユニット	採用
31.4.1	特定助教	入江 啓輔	リハビリテーション科学コース	採用

日 誌 (H 30.4 ~ H 31.3)

4.4	修士課程 1 回生ガイダンス	8.9	オープンキャンパス
4.5	博士後期課程 1 回生ガイダンス	8.13-15	夏季一斉休業
	病院協議会	8.24	2 年次学士入学試験
4.6	学部入学式	8.28	大学院修士課程入学試験
	学部新入生ガイダンス		
	大学院入学式	9.6	教務・教育委員会
4.12	執行部会議		病院協議会
	医学研究科将来計画検討委員会	9.13	執行部会議
	医学研究科会議・医学教授会		臨時教授会
	教務・教育委員会		医学研究科将来計画検討委員会
4.16	拡大執行部会議		医学研究科会議・医学部教授会・医学教授会
4.19	教員会議	9.14	2 年次学士入学試験合格発表
	教授会・学系会議		大学院修士課程入学試験合格発表
4.26	執行部会議	9.18	拡大執行部会議
	医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議	9.20	教員会議
4.28	大学院説明会 [検査技術科学コース]		教授会・学系会議
		9.21	遺骨返還式
5.8	病院協議会	9.27	執行部会議
5.10	執行部会議		医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議
	医学研究科将来計画検討委員会		
	医学研究科会議・医学教授会	10.4	教務・教育委員会
	教務・教育委員会		病院協議会
5.11	第 55 回国立大学臨床検査技師教育協議会	10.11	執行部会議
5.14	拡大執行部会議		医学研究科将来計画検討委員会
5.17	教員会議		医学研究科会議・医学教授会
	教授会・学系会議	10.15	拡大執行部会議
5.19	大学院説明会	10.17	解剖体祭
	[リハビリテーション科学コース (作業)]	10.18	教員会議
5.24	執行部会議		教授会・学系会議
5.27	第 11 回国立大学保健医療学系代表者会議 看護学分科会	10.20	第 31 回健康科学市民公開講座
5.28	第 13 回国立大学保健医療学系代表者協議会	10.25	執行部会議
			臨時教授会
			医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議
6.2	大学院説明会 [看護科学コース]		
	大学院説明会	11.1	教務・教育委員会
	[リハビリテーション科学コース (理学)]		病院協議会
6.7	病院協議会	11.3	京都大学ホームカミングデー
	教務・教育委員会	11.6	大学院博士後期課程入学試験
6.14	執行部会議	11.8	執行部会議
	医学研究科将来計画検討委員会		医学研究科将来計画検討委員会
	医学研究科会議・医学教授会		医学研究科会議・医学教授会
6.18	創立記念日	11.9	過半数代表者選挙投票日
6.19	拡大執行部会議	11.12	拡大執行部会議
6.21	教員会議	11.15	教員会議
	教授会・学系会議		教授会・学系会議
6.28	執行部会議	11.17-18	特色入試第 2 次選考
	医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議	11.22	執行部会議
			医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議
7.5	教務・教育委員会		11 月祭 (~ 25 日)
	病院協議会	11.29	医学研究科会議
7.12	執行部会議	11.30	博士後期課程入試合格発表
	医学研究科将来計画検討委員会		
	医学研究科会議・医学教授会	12.6	教務・教育委員会
	臨時教授会		病院協議会
7.12-13	平成 30 年度全国国立大学法人助産師教育専任	12.13	執行部会議
	教員会議		医学研究科将来計画検討委員会
	医学研究科将来計画検討委員会		医学研究科会議・医学教授会
	医学研究科会議・医学教授会	12.17	拡大執行部会議
7.17	拡大執行部会議	12.20	教員会議
7.19	教員会議		教授会・学系会議
	教授会・学系会議	12.22	京都大学医学教育ワークショップ (KUROME)
7.23	医系懇談会	12.27	執行部会議
7.26	執行部会議		医学部教授会
	医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議		医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議
			管理体制委員会

日		誌	
31.1.4	新年挨拶会	3.7	教務・教育委員会
1.8	病院協議会		病院協議会
1.10	執行部会議	3.9	教授会
	医学研究科将来計画検討委員会		医学部教授会
	医学研究科会議・医学部教授会・医学教授会	3.10	学部入試合格発表
	教務・教育委員会		2年次学士入学試験(追加募集)合格発表
1.15	拡大執行部会議	3.13	執行部会議
1.17	教員会議	3.14	医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議
	教授会・学系会議		医学研究科将来計画検討委員会
1.19	大学入試センター試験(～20日)		医学研究科会議・医学教授会
1.21	五〇会総会	3.18	拡大執行部会議
1.23	執行部会議	3.22	人間健康FD討論会
1.24	医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議		教員会議
	医学研究科会議・医学教授会		教授会・学系会議
2.7	教務・教育委員会	3.25	修士・博士学位授与式
	病院協議会		修了を祝う会
2.13	執行部会議	3.26	学部卒業式
2.14	医学研究科将来計画検討委員会		卒業を祝う会
	医学研究科会議・医学教授会	3.27	執行部会議
2.15	2年次学士入学試験(追加募集)	3.28	医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議
2.18	拡大執行部会議		医学研究科将来計画検討委員会
2.21	教員会議		医学教授会
	教授会・学系会議		
2.25	学部入試(～26日)		
2.27	執行部会議		
2.28	医学研究科関係学系系長会議・専攻長会議		
	医学研究科会議・医学教授会		

あとがき

本年も無事に広報をお届けする事ができました。本誌では、本学科を取り巻く組織改革や人事異動を皆様に正確にお伝えするとともに、学位取得者の声や開催行事などもご紹介したいと思っております。特に近年は、学士編入制度を新しく導入した事に加え、オープンキャンパスを毎年開催するなど、本学科の授業や研究を周知するためのプロモーション活動を積極的に行っております。今後ともお力添えの程、どうぞよろしくお願い致します。

(広報委員会 委員長 奥野 恭史)

<http://www.med.kyoto-u.ac.jp/>